

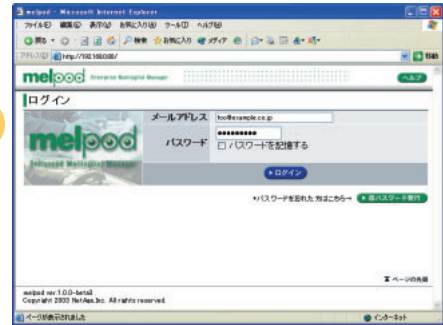
Product Reviews

MLを簡単構築 ウェブからの閲覧・投稿も可能なMLサーバー

melpod
ネットエイジ

7月28日ダウンロード販売開始

サーバーライセンス：38,000円(Linux版) / 58,000円(ウィンドウズ版)
年間クライアントライセンス：50,000円(30ユーザー)～ 8月31日まで半額



melpodのログイン画面。

ウェブからの簡単操作で ML管理の負担を大幅に軽減

ちょっとした連絡を取り合うために、メーリングリスト(以下ML)は、便利な存在だ。しかし、いざMLを構築するとなると少しハードルが高い。技術的にはオープンソースのソフトウェアを組み合わせて運用できるものの、インストールはともかく、MLの作成やユーザー管理はすべて設定ファイルの書き換えで行うため、管理が煩雑になってしまう。

このようなMLを構築する際の管理の手間を軽減するのが、melpodだ。melpodを使うと、MLの運営、MLの新規作成、参加メンバーの登録など、統合的な管理をすべてブラウザから行える。

melpodは、Javaベースのアプリケーションだ。melpodは単一構成ではなく、Apache TomcatやJakarta James、PostgreSQL(ウィンドウズ版はPowerGres)など、複数のアプリケーションで構成されているものの、これらはRPMパッケージ(Linux版)やSetup.exe(ウィンドウズ版)にまとめられている。そのため、各々のソフトをまとめてインストールでき、インストールの際のわずらわしさはない。つまりmelpodのイン

ストール自体は簡単な。

強いて言えば、インストールするサーバーに、すでにApacheやIISなどのウェブサーバーソフト、そして、sendmailやSMTPサービスなどのメールサーバーソフトがインストールされていると、melpodとパッチングして正しく動かないという点だけ気を付けたい。

しかしMLは、インターネットで運営する以上、DNSの設定が不可欠だ。具体的には、まず最初にmelpodで運営するML用のサブドメインを新たに作る。そしてサブドメイン宛てのメールを、melpodをインストールしたサーバーが受け取れるようにするため、「MXレコード」にこのサーバーを登録する。またMLに投稿があった場合、その受信はmelpod自身が行うものの、投稿されたメールを全ユーザーに配送する際には、別に構築されたSMTPサーバーを用いて転送するという方式をとるので、その設定も必要となる。

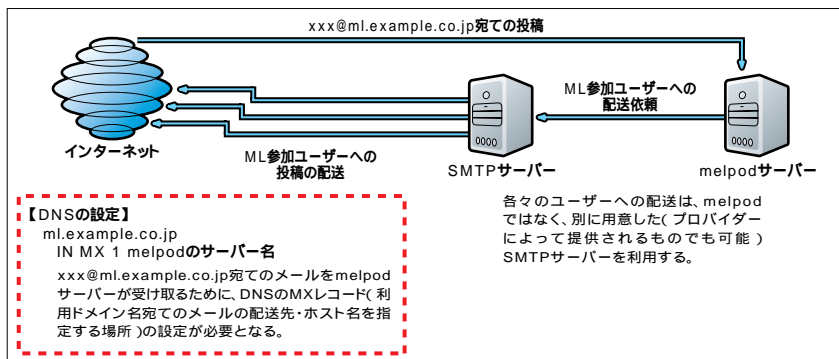
このようにDNSやSMTPサーバーとの連携が必要であるため、melpodは購入して勝手に社内LANなどに構築することはできない。導入時には、ネットワーク管理者に相談し、事前に検討する必要がある。

配信ユーザーはあらかじめ登録するも ML外からの投稿にも対応

melpodは不特定のユーザーにMLを配送するのではなく、限られたユーザーにだけ配信する。これはmelpodの用途がビジネス向きで、ビジネスで存在するプロジェクトごとにMLを構築するといった目的での利用を想定しているためだ。利用にあたっては、まず利用ユーザーの登録が必要だ。登録できるユーザー数は、購入した年間ライセンス数までとなる。なおライセンスは、ユーザーに関するものでしかなく、作成できるML数の制限はない。1人のユーザーが複数のMLに参加するのも自由だ。ユーザーにML作成の権限を与えれば、そのユーザーは以降、ウェブ管理画面から、自由にMLを作成できるようになる。

また、melpodは一般的なMLの運用形式の、「MLに参加しているユーザーならば、自由に投稿できる」というもの以外に、さまざまな運用が可能だ。たとえば、「管理者以外は投稿できない」ということにすれば、社内報を全社員に送信するような用途に利用できる。

ほかにもmelpodでは、配信先は事前にmelpodに登録したユーザーに限られるものの、投稿はmelpodに登録していないユーザーから受け付けることもできる。この機能を使うと、インターネットからの問い合わせに応じる「info@example.co.jp」のようなアドレス(ML)を用意して、それに投稿されたメールは社内の複数の担当者に転送すると、アンケート用のMLを作って複数の担当者に振り分けて管理するといった使い方も可能だ。

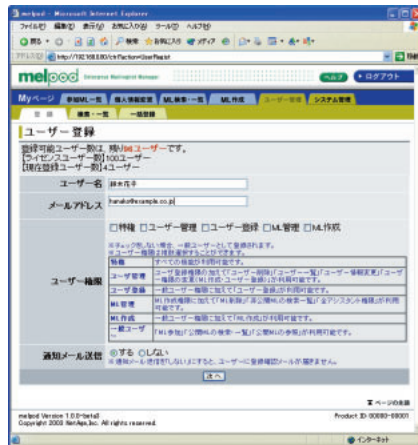


「FreeML.com」を継承した使いやすいユーザーインターフェイス
 melpodは、メールを使ってMLの配送をするだけでなく、ウェブ画面でもMLを操作できる。melpodにユーザーを登録すると、そのユーザーに対して、melpodのウェブページにアクセスするためのパスワードが記述されたメールが送信される。各ユーザーは、そのパスワードを使って、過去の投稿を読んだり、検索絞り込みができてきたりするばかりか、返信や新規投稿ができる。このためメールソフトを使わずに、完全にウェブだけでもMLを利用できる。

melpodの開発元であるネットエイジは、フリーMLサービス「FreeML.com」を立ち上げたため、ML操作のウェブページは、それに似た非常に使いやすいユーザーインターフェイスとなっている。ユーザーインターフェイス面では、ML操作画面のみならず、管理画面でも細かいながら使いやすい工夫がされている。たとえば、多数のユーザーを一括登録する場合には、CSV形式で一気に登録できるし、登録したユーザーの検索も容易だ。ただし、管理画面からすべての管理操作ができるわけではない。アクセスログの参照やデータベースのバックアップは、コマンドラインからの操作となる。通常では不便はないものの、せめてバックアップ操作ぐらいはウェブの管理画面でできれば便利だろう。

SPAMチェックやフィルタリングなどMLのセキュリティにも配慮

MLを運用するとなると、そのセキュリティにも注意したい。その点、melpodはめがかりなく、セキュリティ面もしっかり考慮されている。melpodでは、添付ファイルやHTMLメールの禁止、同一文面で24時間以内に10通以上届いたときにそれを破棄するSPAMチェック機能、特定のメールアドレスをブラックリストとして登録して投稿を受け付けられないようにする機能などが備わっている。これらの機能で、MLがSPAMでいっぱいになってしまう恐れは少ない。また、従来、ビジネスでのコミュニケーションの効率化を図ろうという際には、グループウェアを利用する場面も多かった。しかしグループ



ユーザーを登録する。登録時には、いくつかの権限を設定できる。ユーザー登録後には、パスワードが記されたメールが送信される。



投稿された内容はブラウザでも参照でき、検索にも対応している。ウェブから新規に投稿したり返信したりすることもできる。

ウェアは高度であるものの、導入が複雑で上げすぎると、セキュリティの問題から、社外のスタッフにアカウントを与えるのは難しいといった不便な側面もある。そんなときにもmelpodを使えば、グループウェアと似た容易な管理方法でありながらも、高い自由度でMLを運営できる。

melpodの導入で少しためらうのが、年間クライアントライセンス制だ。年間クライアントライセンスは毎年発生する費用だが、基本機能のバージョンアップ費用が含まれているため、バージョンアップ時には費用は発生しない。30ユーザーの場合で1人あたり年間1,500円ほどのライセンス費用は、ASPによる商用MLサービスと比べてさほど割高ではないとはいえ、売り切りでの販売も検討してほしいものだ。

(大澤文孝)



MLの作成。参加制限や投稿制限などを細かく設定できる。ML作成後、参加ユーザーを設定すれば、すぐにMLを運営できる。



年間クライアントライセンス

ユーザー数	Linux版	ウィンドウズ版
30	50,000円	50,000円
100	110,000円	110,000円
200	200,000円	200,000円
500	460,000円	460,000円

8/31までに発注するとキャンペーン価格(半額)になる

melpodの動作環境

対応OS	Linux版	Red Hat Linux 7.3以降
	ウィンドウズ版	ウィンドウズ 2000/XP
参考URL	http://www.melpod.com/	
問い合わせ先	info@melpod.com	

無線LANのセキュリティーを確保できる 小規模オフィス向けファイアウォール

SonicWALL SOHO TZW

SonicWALL, Inc.

発売中

標準価格：198,000円 2年目以降のセンドバック保守価格：17,500円/年



左から電源、WANのステータス、無線LANのステータス、LANのステータスと表示が並ぶ。大き目の無線LAN内蔵ルーターといった感じのケースだ。アンテナが調整できるし、壁掛けもOK。

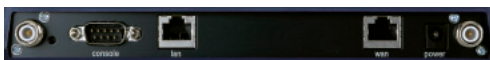
定番のファイアウォール スループットは75Mbps

ファイアウォールに無線LANのアクセスポイントとセキュリティーの機能を加えた小規模ネットワーク向けファイアウォール「SonicWALL SOHO TZW」が発売された。SonicWALLはセキュリティーに関心のある人なら誰でも知っているファイアウォール&VPN装置の定番。そんなSonicWALLに無線LANのセキュリティー機能が追加されたというのだから当然すごく気になる。

まず、ファイアウォールのスペックは、標準で25ユーザーまでサポートし、オプションでユーザー数を拡張できる。ファイアウォールのスループットは75Mbps、IPSec VPNのスループットが20Mbpsだ。本機のターゲットであるSOHOなどの小規模なネットワークでは十分な性能だろう。パケットフィルタリングは、ステートフルパケットインスペクション方式で、ファイアウォールを経由する電子メールの添付ファイルやJAVA、ActiveXなどを逐次監視して通過させるかどうかを判断する機能を持つ。なお、PPPoeクライアントとDHCPクライアントの機能を搭載し、単独でFTTHやADSLなどに接続することが可能だ。

無線LANはWiFiSecで セキュリティーを向上

無線LANへの対応ではIEEE 802.11b対応のアクセスポイントを内蔵して、無線LANのセキュリティーも一体で管理できる仕組みになっている。WEP暗号化128ビットやMACアドレスフィルタリング、SS-IDステルス機能、ANY接続の拒否、無線クライアント同士の通信可否設定など、標準的と思われる機能は網羅しているが、それに加えて本機の最大の特徴はWiFiSecへの対応だ。WiFiSec機能では、まず無線LANの



両脇にアンテナを配し、設定用のコンソールポート、LAN、WANのポートが並ぶ。



設定ウィザード画面。基本的な設定は、ウィザードだけで簡単にできる。

クライアントには通常使用とは異なるIPアドレスが割り当てられてLANとは別セグメントになる。そして、付属のツール「グローバルVPNクライアント」を使ってVPN接続すると、初めてLANやインターネットが使えるという仕組みだ。

また、LANにはつながらないがインターネットにはアクセスできるゲストアクセス用アカウントを作ることできる。こちらは、ブラウザでウェブにアクセスしようとすると認証画面が表示され、ゲストのIDとパスワードを設定するだけでインターネットが使用できる。

無線LANのセキュリティー確保は、無線LANの別セグメント化とVPNの組み合わせというのが時流だが、それを1台のファイアウォールですべてこなせてしまうわけだ。セキュリティーの保守という視点で重要なのは、セキュリティー上問題となる点をできるだけ減らし、そのポイントだけを集中管理することにある。管理すべき機器やサーバーが多すぎると、コストも手間もかかり、どこかに穴ができる確率も高くなってしま



無線LANの詳細設定画面。伝送能力やブリアンブル(本データの前にある定義コメント部分)の長さなどの細かい設定も変更できる。

からだ。その点で、これ1台でかなりのセキュリティーが確保できることを考えると、198,000円という値段も決して高くはない。似たようなことを実現しようとする、専用サーバーとルーター、無線LANのアクセスポイントが必要で、しかもそれを全部自分でセットアップできる知識と労力が必要だ。

現時点で気になるスペックは、無線LANが802.11bの最大11Mbps止まりという点だ。802.11a/b/g対応製品にもぜひ取り組んでもらいたい。また、家庭内でも使える価格レンジの製品もそろそろ欲しいものだ。

(梅垣まさひろ)

SonicWALL SOHO TZW

同時接続数	6000
ファイアウォールユーザー数	25
ファイアウォールスループット	75Mbps(双方向)
無線LAN	802.11b準拠
VPN	IPSec VPN
消費電力	12W
外形寸法	幅230.3 x 奥行168.4 x 高さ41.4 (mm)
重量	640g
参考URL	http://www.sonicwall.com/japan/

ISDNとブロードバンドに対応した スループット100MbpsのVoIPルーター

NetVolante RT57i
ヤマハ

7月下旬発売予定

予想価格：37,000円前後

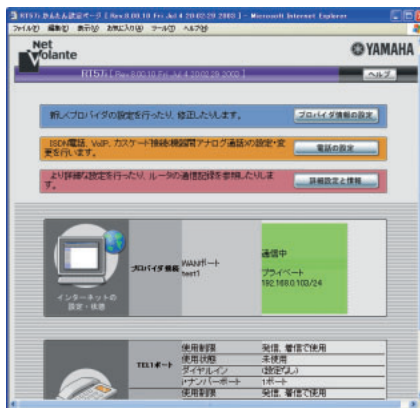
RTA55iの後継機は スループット100Mbpsだ

ヤマハのISDN&ブロードバンド対応ルーター「RT57i」が発売される。主に企業やSOHO向けを狙った製品で、機能的にはRTA55iの後継機である。

RTA55iは縦型の黒い壁スタイルで立てては設置しづらい形だったが、RT57iではその縦横を入れ換えた形になり、奥行き方向が232.5ミリと従来機と比べてもっとも長い。その奥行きを生かして、底面にWAN、LANポート、TELポートなどを設置し、背面の穴からまとめてケーブルを引き出すという独創的なスタイルになった。底面のスタンドが取り外せ、カバーの代わりにもなっていて、コネクタ類が外から見えないので、非常にすっきりとした印象になる。

機能面で強化された点は、まず第一にスループットだ。従来から、ヤマハのルーターはスループットがよくないと言われてきた。ヤマハのウェブサイトでもRTA55iはスループットは最大12Mbpsと書かれている。RT57iは同社によると最大100Mbps(SmartBits測定値) 実効50Mbps(PPPoE + NAT + ファイアウォール測定値)とこれ以上は望めないほど改善されている。2つ目には、VoIP機能の強化だ。エコーキャンセラーやジッターバッファ(IPネットワーク上で相手に到着するタイミングのばらつきを調節)の自動調整機能、ファックス通信への自動対応など、通話品質を上げるための機能が追加された。優先制御機能(QoS)も備えているので、これを使えばいっそう通話品質の向上が見込めるといわれた。音声圧縮(G.729a)にも対応したので、ISDN回線でもIP電話が使える。050番号への対応も進められているとのことだ。

一方、TA機能、USB、RVS-COMの各機能は削除された。これらの機能の必要性は低い



設定のトップページ。すっきりと見やすくなった。

電池ボックスまで削減されたのには不満が残る。停電時には電話がかげられなくなるので、災害対策としては古い電池駆動可のTAをとっておいて、電池とともに防災袋に入れておきたい。

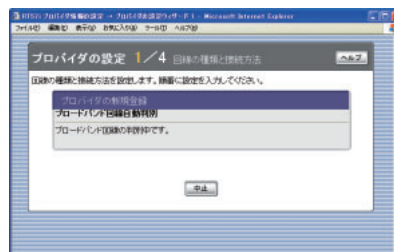
スループットもすごいが GUIも大きく改善された

まずスループットを測定してみたが、LAN-WAN間、NATあり、フィルターありの条件でnetperf-2.1pl1を用いてUDPストリームを測定したところ95.1Mbpsだった。カタログスペックに肉薄するかなりの好成绩だ。

また、スループットの改善と併せて設定画面のGUIが大幅に改善されているのがわかる。正直なところ、RTA55iの画面は雑然としていてどこをどう設定していいのかがわかりにくかったが、RT57iではそんな心配もいらない。まず、ルーターとしての基本的な設定を行う「プロバイダ情報の設定」と電話関係の設定をまとめた「電話の設定」、詳細な設定や管理を行う「詳細設定と情報」の3つのメニューに整理され、それぞれがよく吟味されて分類されている。これならヤマハのルーターは高性能だが複雑で初心者にはわかりにくいという評判も変わってきそうだ。もちろん、IPv6、UPnP、VPN、syslog、IPフィルタ



縦型の筐体は小さく見えるが、奥行きはけっこう長い。三角の足に見える部分がスタンドで、取り外すと底部にLANなどのコネクタが並んでいるユニークな設計だ。



ブロードバンド回線の自動判別機能が加わって、よりフレンドリーに。設定の流れはきわめてシンプルだ。



QoSは10Mbpsまでの回線でも有効だ。ADSLなどの場合にはここでQoSを設定しておくと、通話品質の維持が可能になる。

リング、セカンダリIP、telnet/console設定などは従前のまま有効だから、ヤマハのルーターに慣れ親しんできたパワーユーザーにも今までどおりの使い勝手が提供される。ISDNを使いながらブロードバンドを併用するユーザーには非常に魅力的なルーターに仕上がった。とりわけVoIPとIPv6の将来を考えるなら、このルーター以外の選択肢はないと言っていい。(梅垣まさひろ)

NetVolante RT57i

LANポート	10BASE-T/100BASE-TX、4ポートスイッチングハブ
WANポート	1(10BASE-T/100BASE-TX)
TELポート	2(ランチなし)
その他インターフェイス	U点、S/T点、D-sub 9ピン(シリアル)
消費電力	最大10W
外形寸法	幅64×奥行き232.5×高さ178.5(mm)
重量	本体700g、ACアダプター90g
参考URL	http://NetVolante.jp/
問い合わせ先	ネットボランティアセンター 03-5715-0350

IEEE 802.11 a + b + gトリプル対応の無線LAN内蔵ルーター

Aterm WR7600Hワイヤレスセット(TC) 発売中
NECアクセステクニカ

実売価格：23,800円

トリプル規格対応&低価格の無線LAN内蔵ルーターが登場
NECアクセステクニカから発売された「Aterm WR7600Hワイヤレスセット (PA-WR7600H/TC)」はIEEE 802.11a + b + gの3規格対応の無線LANを内蔵したルーターだ。

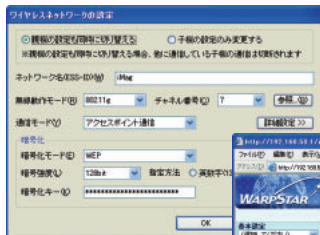
aとb + gは切り替え式だが、カードもアクセスポイントも3規格対応で、しかも驚きの値段。以前に同社の広報担当者から「NECが802.11gをやるとしたらちょっとすごいことを考えてますよ」と聞いていた。それがこの製品なのだ。

まず第一にうれしいのが、Atermシリーズの伝統「らくらくウィザード」の存在だ。LANカードドライバのインストールと設定から無線LANやルーターの設定まで、トータルに面倒を見てくれる親切なウィザードだ。多機能であるために設定に迷うことが多いのがこの手の機器だが、基本となる設定はこのウィザードで一気作業完了だ。音声ガイダンスまで出てくる親切さには、ちょっとやりすぎではないかと思うほどだ。

機能面を見ても実にたのしい。無線LANのユーティリティ「サテライトマネージャ」はアクセスポイントの選択から電波状態のチェックまできめ細かい対応。無線LANの設定では、WEP暗号化64/128/152ビット、MACアドレスフィルタリングに加えて、ESS-IDを外部から見えなくする「ESS-IDステルス機能」、電波の出力を100、50、25、12.5パーセントの4段階で制御する機能を持つ。セキュリティ対策も万全だ。なお、8月ごろのバージョンアップでより強力な暗号化方式であるAES/TKIP152ビットにも対応する予定だ。

性能もよし機能もよし このルーターには脱帽

手始めにスループットを測定した。netperf 2.1p1(1)を用いて、有線側に置いたFreeBSDサーバーとノートPCの間でUDPスト



「サテライトマネージャ」のワイヤレス設定画面。無線LANカードだけでなく、親機の設定もまとめて同時に変更できる。

ルーター側の無線LAN設定画面。送信出力やESS-IDステルス機能などが設定できる。

リーム(2)の測定を行った。まず、ルーター(LAN-WAN間)のスループットは、約94Mbpsの数値が出た。NECの公表値98.7Mbpsに肉薄する値だ。また、無線LANは802.11b + g互換モードのときに19.9Mbps、802.11gモードで23.0Mbps、802.11aモードで25.3Mbpsといずれも申し分ない値だった。これらはWEP128ビット暗号化をオンにした状態での結果だ。

次に電波の届き具合を調べた。802.11gでは木造3階建てのもっともスループットが落ちる場所ですら約10パーセントのダウン、802.11aでは約25パーセントの低下だった。マンションなど機密性が高く遮る物が多い環境では802.11aの電波が届くかどうか少々心配だが、このルーターは802.11aとgとを切り替えて使用できるので、802.11aかgかという選択はもはや不要。スループットを重視したければ802.11aを、電波の届きを重視するなら802.11gをあとから選べばいい。じつに合理的だ。

なお、ルーター本体には無線LANカード「WL54AG」があらかじめ装着されているが、底面のふたをパカッと開ければ取り出せるようになっている。もし将来ルーターを使わなくなったら、カードだけ取り出して使える。また、筐体には縦置きスタンドが付属する。横置きでも使え



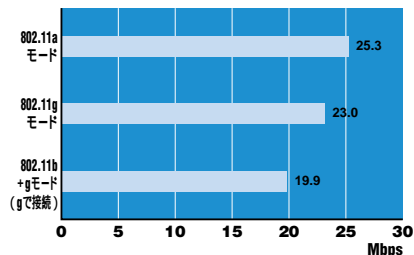
わかりにくいですが、DISCと書かれたランプの上に回線切断スイッチがある。以下順にPOWERランプ、通信状態を表示するPPPランプ、イーサネットと無線LANの通信をモニターするDATA/AIRランプと並ぶ。

ディップスイッチは、初期化や専用モードを使うときに使用する。外部のルーターを使うときはこのディップスイッチで「HUBモード」にするとハブ + 無線LANアクセスポイントのみの動作となる。

以下、WANポート、LAN4ポートハブ、アース、電源ケーブルと並ぶ。



無線LANのスループット調査結果



そんなデザインだが、本体が熱くなるので必ず縦置きで使用すること。

トリプル規格対応、セキュリティ、スループット、機能、ユーティリティとどれをとっても言うことなし。ルーターとしても無線LANとしてもこれはおすすめの1台だ。(梅垣まさひろ)

- 1 netperf 2.1p1の入手先
URL <http://www.netperf.org/netperf/NetperfPage.html>
- 2 netperfのコマンドラインオプション
netperf-2.1p1.exe -t UDP_STREAM -H 192.168.0.200

Aterm WR7600Hワイヤレスセット(TC)	
無線LAN	802.11a/g/b準拠
暗号化	WEP64/128/152ビット(AES/TKIPは8月対応予定)
セキュリティ	ESS-IDステルス機能、MACアドレスフィルタリング
消費電力	最大約8W
外形寸法	幅25 × 奥行157 × 高さ215(mm)
重量	600g
参考URL	http://121ware.com/aterm/
問い合わせ先	Aterm インフォメーションセンター0120-36-1138

プリントサーバー & 802.11g 無線LAN内蔵ブロードバンドルーター

PBRW003P
パーソル

発売中

市場参考価格：19,800円

無線ルーター + プrintサーバーで この価格を実現

新進のネットワーク周辺機器メーカーであるパーソルからIEEE 802.11gの無線LANとプリントサーバーを内蔵したブロードバンドルーター「PBRW003P」が発売された。これは無線LANカード「PBW006」とルーター「PBRW003」のセットだ。

従来機種であるIEEE 802.11b対応ルーター「PBRW001」は、前面にイーサネットポートなどが並ぶスタイルだったが、新製品ではポート類は背面に変更され、スループットも同社測定値で87Mbpsと大幅にアップ。FTTHにも耐えうる高速ルーターとして登場した。価格は19,800円(市場参考価格)とかなりお買い得だ。無線LANの機能では、ESS-ID、32エントリーのMACアドレスフィルタリング、WEP64/128ビット暗号化に対応する。無線LANのモード設定はなく、常に802.11b + gが有効な状態で動作する。また、ルーターは、動的IP、固定IP、PPPoE、アンナバードPPPoEに対応。NATを基本にしたルーターだが、DMZ機能や仮想サーバー機能があるのでサーバーも設置できる。もちろん、パケットフィルタリング機能も備えており、オンラインゲームのBattle.netなどいくつかのアプリケーションに対応した専用の設定がある。プリントサーバーは、付属する専用ドライバーをインストールして使用する。ただし、パラレルポート対応なのでUSBプリンターでは使えない。

コストパフォーマンスに優れた機能もまずまず

手始めに、無線LANとルーターの速度を測定した。今回の測定では、netperf 2.1pl1()をウィンドウズXPのノートPCとFreeBSDサーバーにそれぞれ導入してテストを行った。

両脇にアンテナ、左からリセットボタン、プリンターポート、4ポートハブ、WANポートがある。ACアダプターはコンパクトなスイッチングタイプだ。



まず、無線LANと、有線LAN側に置いたサーバーとの間のスループットを調べたところ、WEP128ビット暗号化のみをオンにした状態で平均23.3Mbpsとなった。802.11gとしてはまずまずの値だ。また、有線LANとWANの間のスループットも測ったが、こちらは94.1Mbpsという値だった。カタログスペックを超えるスループットで、FTTHの100Mbps回線でもまったく問題ない。なお、電波の届き具合もなかなか良好だった。3階建て戸建て住宅のどの部屋でもスループットの低下はほとんどなかった。

無線LAN回りの機能には、モード設定がないなどやや物足りない部分もなくはないが、性能も全体の機能も価格から考えると妥当な内容だ。無線LAN、ブロードバンドルーター、プリントサーバーと家庭内のLANで必要な機能がオールインワンでコンパクトにまとめられており、コストパフォーマンスは高い。家で使う無線ルーターとしておすすめできる。注文をつけるとしたら、プリントサーバーはUSBタイプにしてほしかった。家庭内で手軽に使うとなると、現状ではやはりUSBプリンターの場合が多いだろう。せっかく搭載されているプリントサーバー機能を使わないのなら、オールインワンの価値が下がってしまうことになりかねない。それと、マニュアルがあまりにも不親切だ。写真も図もないマニュアルで、初めて使うユーザーがインストールするのはやや辛

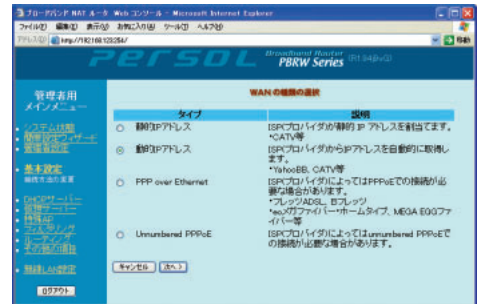


電源、無線LAN、WANなどの表示が並ぶ横型の筐体だ。底面には、壁掛け用の穴がある。

いだろう。

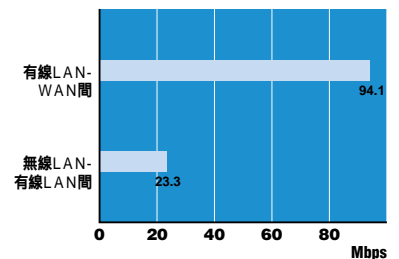
(梅垣まさひろ)

netperf 2.1pl1の入手先
URL <http://www.netperf.org/netperf/NetperfPage.html>



「簡単設定ウィザード」で使用する回線タイプを選べれば、設定はひととおり完了する。

無線LANおよびルーターのスループット調査結果



PBRW003P

無線LAN	802.11g準拠
暗号化	WEP64/128ビット
セキュリティ	ESS-ID、MACアドレスフィルタリング
消費電力	10W
外形寸法	幅214 × 奥行128 × 高さ27 (mm)
重量	700g
参考URL	http://www.persol-jp.com/
問い合わせ先	お客様お問い合わせセンター 03-3590-9210

仮想ドライブからアクセスできる 簡単操作のデータ暗号化ソフト

VisNetic SafeFile 2.0
テクノブレスト

発売中

販売価格：9,800円(1年間の無償アップグレード含む)



3バックライセン
スは23,800円、6
バックライセン
スは40,600円で販
売している。現在、
日本語販売記念
キャンペーン中
(販売価格20パ
ーセントオフ)

仮想ドライブで データを手軽に暗号化

VisNetic SafeFileは、仮想ドライブを経
由した簡単な操作でファイルを暗号化す
るソフトだ。

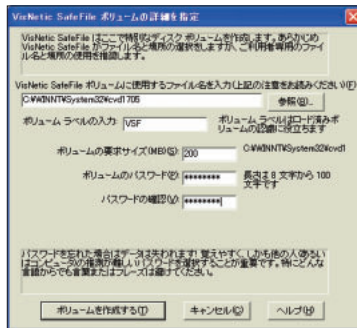
VisNetic SafeFileでは、暗号化の準備
として、まず、パスワードを付けた暗号化
の利用領域(ボリューム)を作成する。そ
して、利用時にはこの暗号化ボリューム
を仮想ドライブに割り当てて利用する。
パスワードが要求されるのは、このよ
うに暗号化ボリュームを仮想ドライブに割
り当てるときだけで、暗号化のたびに
いちいちパスワードを入力する不便はない。
一度仮想ドライブに割り当てると、通常
のドライブと同様、[マイコンピュータ]
に表示され、ドラッグ&ドロップ操作がで
きる。もちろん、アプリケーションから直接
保存したり、開いたりすることも可能だ。

暗号化し終えたら、仮想ドライブの割り当てを
解除する。そうすれば、仮想ドライブが[マイ
コンピュータ]から見えなくなり、暗号化された
ファイルがパソコンに存在していないように見
える。

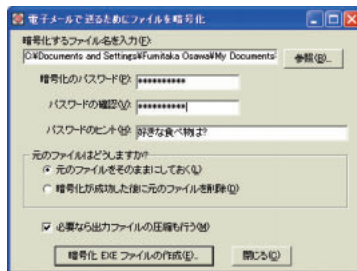
VisNetic SafeFileは、仮想ドライブによる暗
号化だけでなく、自己解凍EXE形式ファイルと
して暗号化することもできる。暗号化したEXE
形式ファイルを実行するとパスワードが求めら
れる。ここでパスワードが合致しないかぎり元
のファイルを取り出せない。EXE形式ファ
イルの実行にはVisNetic SafeFileは不要な
ので、たとえばメールで重要なデータを送信し
たいといった場面に活用できる。

簡単な操作ながら 機能は本格的

暗号化ソフトで気になるのは、その強度だ。



初めに、パスワードを付けて、暗号化ボリュームを
作成する。

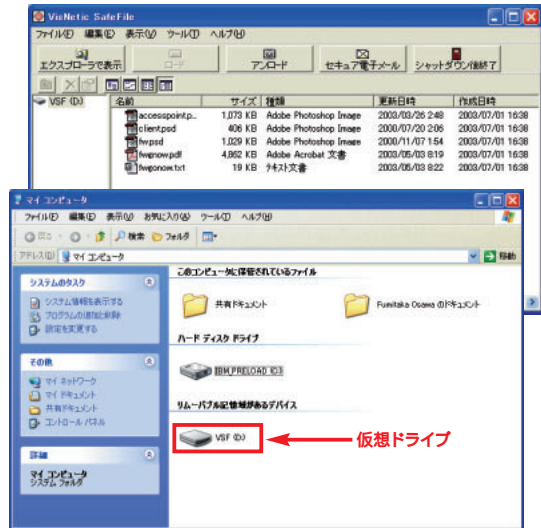


単一ファイルをEXE形式にして暗号化することも
できる。

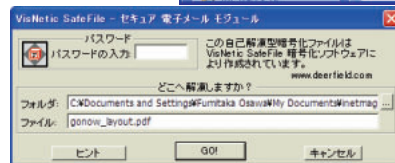
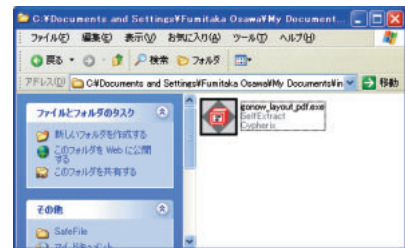
VisNetic SafeFileでは、米商務省でも承認さ
れたAESを採用している。128ビットの強度で
暗号化するので、解読される心配はほとんどな
い。また仮想ドライブも最大2GBまで作成
でき、大きなファイルの暗号化にも対応する。

このほか、万が一パスワード
を忘れたときのために、
インストール時に設定した2
つのパスワードを入力する
と、暗号化ボリュームに付
けたパスワードを参照できる機能も備わって
いる(インストール時に設定したパスワードを忘れ
た場合の復帰はできない)。

企業で利用する場合には、インストール時のパ
スワードを企業の管理者が設定するように運用
すれば、暗号化した本人がパスワードを忘れた
り、退社したりしても安心だ。(大澤文孝)



[ロード]ボタン(上画面)を押して仮想ドライブの割り当てを
するときだけパスワードが求められる。その後、[マイコンピュータ]
に仮想ドライブができ、ファイルを保存すれば暗号化、ファイルを開
けば復元操作が自動的にされる。



実行するとパスワードが求められる。実行にあたっては、
VisNetic SafeFileのインストールは不要。

VisNetic SafeFile 2.0の動作環境

対応OS	ウィンドウズ95(OSR2)98/Me/NT 4.0/2000/XP
ハードディスク空き容量	6MB以上
メモリー	16MB以上(NT 4.0/2000/XPは32MB 以上)
参考URL	http://www.technoblest.com/
問い合わせ先	046-259-1458

2年間のアップデートサービスと ディスクバックアップソフト同梱

インターネット ウイルス プロテクターV4

7月11日発売

ライフポート

定価：4,800円(シングルライセンス版)

標準的なウイルス対策機能に加えて
スパムメールやシステム復元に対応

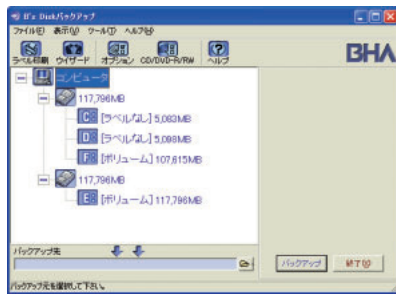
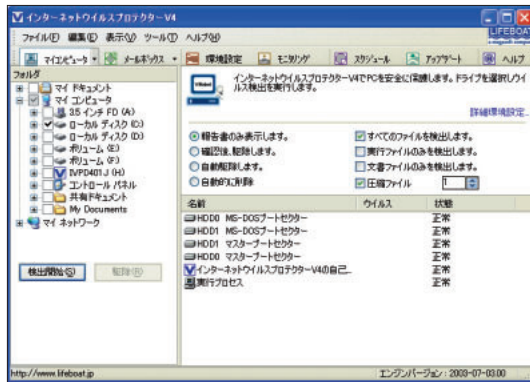
インターネット ウイルス プロテクターV4は、多重圧縮ファイルを含む圧縮ファイル内のウイルス検知が可能なウイルス対策ソフトだ。マイクロソフトオフィスやインターネットエクスプローラ5以降でワードやエクセルを開く際にウイルスを自動検知できるほか、エクスプローラやアウトLOOK上から機能呼び出せるプラグイン機能を持つ。ウイルス検索エンジンは、ウィンドウズ、マクロ、Javaのそれぞれに最適化したエンジンを持ち、高速化を実現しているという。ウイルス対策ソフトの生命線であるアップデート機能は、ファイアウォールやプロキシ経由を含む幅広いネットワーク環境をサポートする。アップデートは週1回の定期に加えて緊急時に行われる。

ウィンドウズ版にはウイルス対策機能以外にスパムメールフィルター機能とシステム復元機能を搭載している。スパムメールフィルターは、「送信者名」や「件名」またはメッセージヘッダーごとに設定できるキーワードフィルターだ。システム復元機能はシステム復旧ディスクを使ってウイルス検知・除去(FATのみ対応)とパーティション情報の復旧(FAT/NTFS対応)を行う。クライアント版にはさらにディスクイメージバックアップソフトを同梱。ウィンドウズサーバー版にはクライアントのアップデート管理機能とアップデートサーバー機能を搭載している。

サポート期間はクライアント版で2年
ガイドブック付きで差別化を図る

セキュリティ製品の中でも特に頻繁なアップデートがあるウイルス対策ソフトは迅速なアップデート対応と、トラブルが起きたときの対応、これらが積み重なって築かれる信頼が重要な選択ポイントだろう。この点でインターネット ウイルス プロテクターV4は、韓国のコンピュータウイルス対

起動画面。エクスプローラ感覚で検索フォルダの指定が可能だ。ウイルス対策ソフトとして一般的な機能は揃っている。

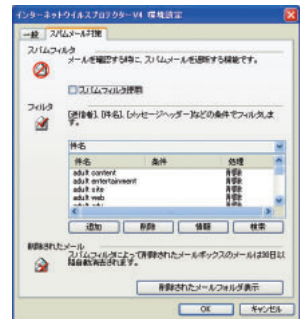


策プログラム開発の大手、ハウリ社の製品を日本語化したものとはいえ、まったくの未知数だ。また、現状ではファイアウォール機能についての追加のオプションは用意されていない。本製品の最大の魅力は低価格なことだろう。クライアント版は2年間のサポート付き(サーバー版は1年)で競合製品の1年分のサポート料金に近い価格設定だ。また、クライアント版のみになるが、自動で起動可能なCD/DVDからまっさらなハードディスク上に元の環境を復元できるディスクイメージバックアップソフトを同梱している。ウイルスなどによるデータ破壊対策には日ごろのバックアップ以上の対策はないし、復旧も他の方法と比べて比較的早く確実に対応できる。このほか、図解付きのガイドブックを付属して競合製品との差別化を図っている。

(井上繁樹)

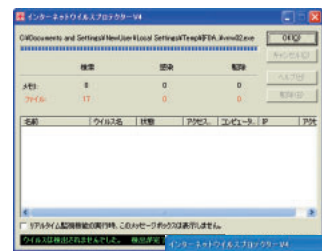


発売記念キャンペーンとして2ライセンス版(6,800円)を限定販売するほか、ウィンドウズサーバー版(34,800円)やLinuxサーバー版(34,800円)もある。



スパムメール対策機能は、「送信者名」や「件名」あるいは「メッセージID」にキーワードフィルタリングをかけるものだ。

「B's ラク〜だ!バックアップLite」を同梱している。ディスク1枚からのシステム完全復旧が可能。日々のバックアップ用途にも使える。



ウイルスチェックはインストール時にもできる。この点は競合製品との差はない。

インターネット ウイルス プロテクターV4(クライアント版)の動作環境

対応OS	ウィンドウズ98/98SE/Me/2000 Pro/XP
対応アプリケーション	IE5.x以降、マイクロソフトオフィス2000以降
ハードディスクの空き容量	30MB以上
備考	起動可能なフロッピーディスクドライブと復旧ディスク用の1.44MBのFDD2枚
参考URL	http://www.lifeboat.jp/
問い合わせ先	03-3265-1250

溜まる一方の名刺を賢く保管、管理、共有する 名刺管理ソフトでデータを有効活用しよう

コンパクトな用紙に必要な情報が収められている名刺は貴重な情報源。が、もらった名刺を机の引き出しに無造作に突っ込んだままでは、せっかくの情報源も台無しだ。名刺フォルダーを使うのも1つの手だが、もっと賢い方法がある。名刺管理ソフトを使うのだ。スキャナーで名刺を読み込めば、あとはソフトが文字認識をして該当する項目に情報を自動的に振り分けてくれる。あっといふ間に人脈データベースの完成だ。 (藪 暁彦)

スキャナー付きやカラー対応 用途に合わせたソフト選び

市販されている名刺管理ソフトは、それぞれに工夫が凝らされている。スキャナーが付属している製品もあれば、手持ちのスキャナーを使うタイプもある。

読み込んだ名刺情報の管理・分類の仕方もそれぞれ違う。「スキャナde!!名刺整理」が市販の名刺フォルダーをイメージさせる画面デザインなのに対して、「名刺PORT」や「名刺OCR V3.0」や「名刺ふぁるだ～ ネットV2」は階層構造のフォルダーを作り、そこに名刺を振り分けられるようになっている。

名刺管理ソフトに取り込んだ名刺情報は、他のアプリケーションでも利用できる。今回取り上げたソフトは、いずれもブラウザやメールソフトとの連携機能を持ち、データをエクスポートできる。しかし、「名刺PORT」と「名刺OCR V3.0」がマイクロソフトエクセルに名刺情報を直接書き込み、「やさしく名刺ファイリングPRO v.5.0」がグループウェアのサイボウズOfficeに対応するCSV形式のデータをエクスポートできるなど、連携可能なアプリケーションには違いがある。

そして、名刺情報はネットワークで共有することによりさらに利用範囲が広がる。今回取り上げた5本のうち、「スキャナde!!名刺整理」以外はどれも共有機能を持っている。なかでも「名刺ふぁるだ～ ネットV2」は、ユーザーのアクセス権やパスワードの設定ができるなど、細かい設定が可能だ。

このようにひと口に名刺管理ソフトと言ってもその機能はさまざまだから、用途や環境に合わせて選ぶのがいい。

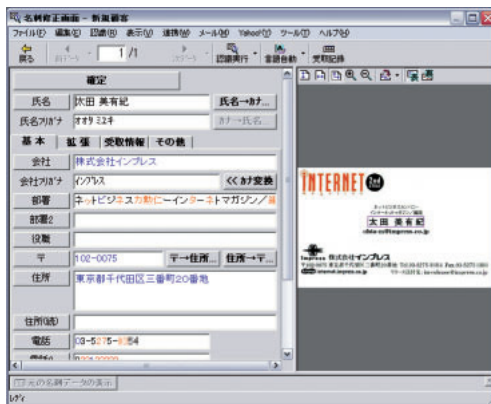
【名刺管理ソフトの必須機能】

名刺情報の読み取りとOCR(文字認識)機能

名刺情報の分類と検索機能

他のアプリケーションとの連携機能

ネットワーク共有機能



「名刺OCR V3.0」では、辞書で自動補正された文字は青色で表示される。それでも認識結果の確認が必要な文字はオレンジ色で、認識できなかった部分には赤い「？」が表示される。ユーザー辞書には、こうした部分の文字を登録するといく(下)



OCRの認識率向上と 自動補正機能で取り込みの効率アップ

人間にとっては凝った名刺ほどインパクトが強く、印象に残りやすい。しかし、OCRにとってはこれが問題になる。特にやっかいなのがフォントだ。ゴシック体や明朝体だけならまだしも、名刺にはそれ以外のフォントが使われることも多く、これが認識率を下げる要因となる。今回取り上げたソフトは、どれも高い精度で読み取った名刺情報を正しく認識してくれた。これはOCR(文字認識)機能の性能がいかに高いかを示すものだが、各メーカーはさらに認識

精度を高めるため、辞書を使って認識した文字の自動補正を行っている。たとえば、「名刺OCR V3.0」には会社名辞書(約120万件)、大口事業所郵便番号データ(約2万件)、住所辞書(約44万件)と氏名辞書(姓:約11万件、名:約9万件)の4種類の辞書を搭載し、認識した文字を補正している。

ユーザー辞書に誤認識された文字を登録すれば、もっと認識精度を上げることができる。「名刺OCR V3.0」「名刺PORT」や「やさしく名刺ファイリングPRO v.5.0」などでユーザー辞書登録が可能だ。

名刺のフォルダー分けで 必要な情報に即座にアクセス

必要な名刺を探すには、検索機能を使う方法と分野別に作成したフォルダーから該当するものを探す方法とがある。数千、数万の中から探すには検索機能が便利だが、それほど多くなければ、フォルダー分けした中から探すほうが便利だろう。市販の名刺フォルダーがモデルの「スキャナdel!名刺整理」では、カテゴリー別にフォルダーを複数作成する。また、「名刺ふるあるだ〜 ネットV2」などは、いかにもコンピュータライクに、階層構造のフォルダーを作り、そこに名刺を振り分ける。

名刺の情報項目からメールソフトやブラウザーを一発起動名刺を見て手動で宛て先を入力。名刺管理ソフトを使えば、そんな面倒なことは必要ない。該当する名刺を表示したら、ワンクリックするだけで宛て先が入力された新規メール作成画面が表示される。同じように、ウェブサイトへもワンクリックでアクセスできる。この機能は今回取り上げたすべてのソフトが持っている。

他のアプリケーションとの連携は CSV形式対応なら問題なし

5本のソフトは、アウトLOOKエクスプレスやPalm Desktopなどが採用しているvCard形式、住所や電話番号などの個人データを記述する規格ContactXML、各項目をコンマで区切って記述するCSV形式など、それぞれ複数の形式でデータをエクスポートできる。

これらの形式の中でもっとも対応するアプリケーションの多いのはCSV形式だが、アプリケーションによって、データ項目の名前や順番が違う。通常は、アプリケーションに合わせて、CSVデータを書き換える作業が必要だが、今回扱ったソフトはいくつかのアプリケーションに対応するCSV形式のデータをダイレクトに出力できる。これを利用すれば、手間をかせずに他のアプリケーションとの連携が可能だ。



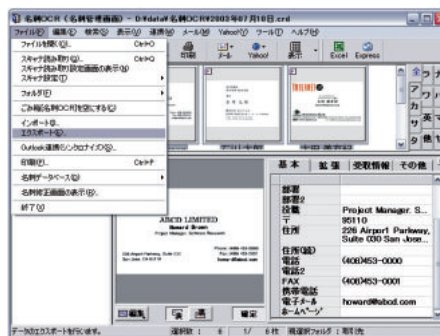
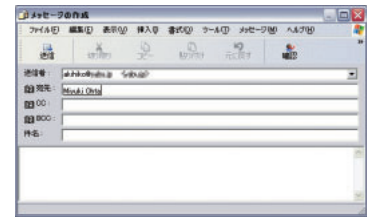
「スキャナdel!名刺整理」では、従来の名刺フォルダーと同じ要領で、分野別のフォルダーを必要なだけ作成して、そこに名刺情報を振り分ける。



「名刺ふるあるだ〜 ネットV2」は、階層構造のフォルダーに名刺情報を振り分ける。「すべての名刺」以下のフォルダーは、最初から用意されている。



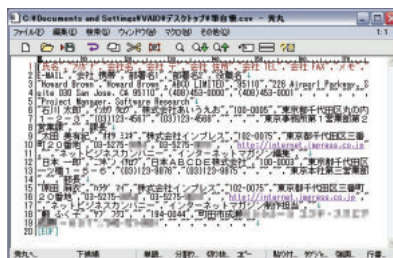
画面中段「詳細表示」の最下段にある「電子メール」をクリックすると、ここに入力されているメールアドレスが入力された新規メール作成画面(右)が自動的に起動する。



名刺情報をCSV形式でエクスポートするには、「ファイル」-「エクスポート...」を選択。これは「名刺OCR V3.0」の例だが、他のソフトも要領は同じだ。



次に、エクスポートできるファイル形式を一覧表示したダイアログが表示される。ここでは「筆自慢」を選択した。



エクスポートした「筆自慢」対応のCSVファイル。

【CSV形式対応アプリケーション例】

- ・ Outlook
- ・ Outlook Express
- ・ Organizer
- ・ Palm Desktop
- ・ 筆まめ
- ・ 筆王
- ・ 筆自慢
- ・ はがきスタジオ
- ・ 宛名職人
- ・ 顧客奉行
- ・ 携快電話
- ・ サイボウズOffice

スキャナ de!! 名刺整理

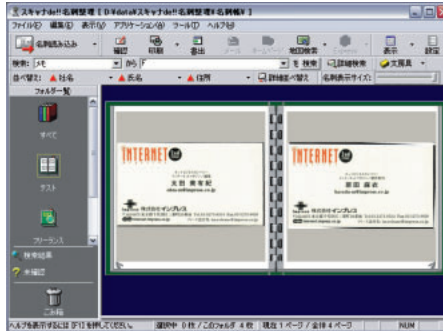
エー・アイ・ソフト

URL <http://www.aisoft.co.jp/>

価格: 12,800円

「スキャナ de!! 名刺整理」は、市販の名刺フォルダーで名刺を整理するのと同じ要領で、直感的に名刺を整理できるのが特徴だ。必要な名刺をすぐ取り出せるよう、名刺に付箋のようなカラータグを付けられるほか、検索やソート機能も備えている。

メールソフトと連動して宛て先入りの新規メール作成画面を起動したり、名刺に書かれたURLにアクセスしたり、MapFan Webで該当する住所の地図を表示したりすることも可能だ。取り込んだ名刺の情報を、CSVやvCard、ContactXML形式で書き出すこともできる。



上は、名刺の読み取り、分類、検索から印刷、書き出しなど大半の操作を行う「メイン画面」。名刺のイメージ表示をテキスト表示に変えることもできる。読み取りが完了すると、右の「名刺の確認」画面が表示される。ここで、誤認識された文字を部分認識したり、手で訂正したりする。



付属の専用カラーキャッチャーはUSB1.1対応。24bitフルカラーをサポートし、最大解像度は600dpi。



名刺PORT バイリンガル

東京電音

URL <http://www.tdo.co.jp/>

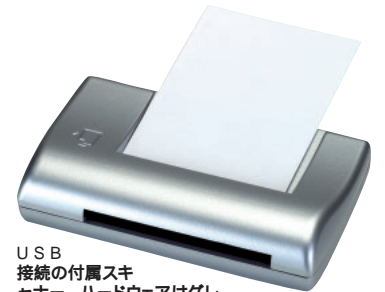
価格: オープンブライズ(16,000円程度)

「名刺PORT」は90パーセント以上という日本語認識率の高さが自慢で、通常版のほかに、「名刺PORT バイリンガル」は日本語に加えて英語の名刺もサポートしている。

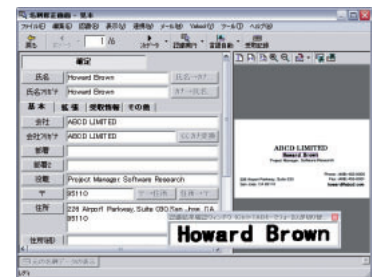
「エクセル」「アウトLOOK」「アウトLOOKエクスプレス」や「筆まめ」「携快電話」へワンクリックでデータをエクスポートできるほか、CSV、vCard、Jアドレス形式でデータを書き出すこともできる。また、新規メール作成画面を起動したり、Yahoo!と連動してウェブサイトやファイナンス情報を検索したり、地図を表示したりすることも可能だ。



上は読み取り、検索、書き出しや他のソフトとの連携など大半の操作を行う名刺管理画面。名刺の読み取り終了と同時に文字認識が始まり、完了すると名刺情報の編集を行う名刺修正画面(右)が表示される。



USB接続の付属キャッチャー。ハードウェアはグレースケールにも対応しているが、ソフトウェアは白黒モードのみで動作する。最大解像度は600dpi。



いつでもどこでも手軽に取り込める「ムーバ SH505i」の文字認識がすごい!

今話題のNTTドコモの505iシリーズのうち、シャープ製のムーバ SH505iには、OCR機能が搭載されている。内蔵のカメラを使って、名刺などに印刷されたURLやメールアドレス、電話番号などの約35文字の英数字を一括して認識できるスグレものだ。使い方も簡単で、カメラを接写モードにしてから、右の写真のように、文字読み取り画面中央の[]内に、紙に印刷された文字をうまく写し、[]の下のバーが濃い青色になったときに撮影ボタンを押せば

いい。ちょっとコツがいるが、慣れればサクサク取り込める。誤認識しても候補リストから1文字ずつ修正できて簡単だ。読み取ったデータは電話帳に登録できるほか、そのままURLにアクセスしたり、メールを作成したりできる。OCR機能はムーバ N504isやN505iにも搭載されているが、URLが長い場合は何回にも分けて認識させる必要があり、使い勝手はあまりよくない。その点、ムーバ SH505iの使い勝手には目を見張るものがある。



NTTドコモのムーバSH505iは、OCR機能のほか、バーコードリーダーも搭載。カメラ撮影の接写モードで利用する。

URL <http://505i.nttdocomo.co.jp/>

名刺ふおるだ～ ネットV2

リコーシステム開発

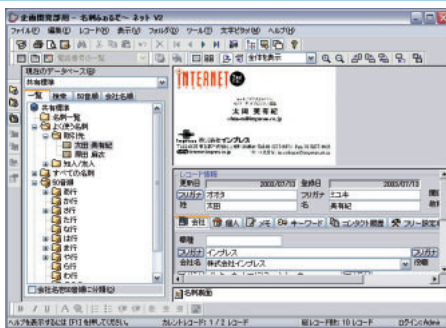
URL <http://www.rsk-tokyo.co.jp/>

価格:69,800円(名刺すきやな～USB付き)
49,800円(名刺スキャンシート付き)

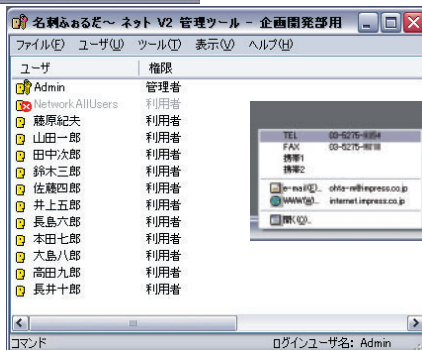
「名刺ふおるだ～ ネットV2」は、製品名が示すとおりネットワーク対応だ。部課やグループ別に共有名刺データベースを作成でき、作ったデータベースはファイルサーバーやPCに設定した共有フォルダーに置く。

ユーザーのアクセス権には名刺の読み込み・登録や名刺情報を修正できる「編集者」、名刺情報を閲覧、検索、印刷できる「読者」とデータベースにアクセスできない「なし」の3種類があり、データベースごとに設定できる。製品本体には2クライアントのライセンスが付き、それ以上の人数で使う場合は必要人数分の追加ライセンス用パッケージを購入しなければならない。

名刺情報に加え、コンタクト履歴、写真などの画像情報を記録したり、メモやデータベースごとに共通の追加項目を設定したりすることも可能だ。



上は「名刺ふおるだ～ ネットV2」の基本画面。右は共有データベースフォルダーの作成・管理やユーザー登録・管理を行う「管理ツール」さらにその右の画面はタスクトレイに常駐する「名刺ふおるだ～ ネットV2 マネージャ」で、よく使う名刺や最近更新した名刺の情報を素早く取り出せる。



「名刺ふおるだ～ ネットV2」には、最大解像度600dpiのUSB接続フルカラー対応スキャナー付属タイプと、スキャナーは付属せずに最大8枚の名刺を同時に読み取れるスキャンシート付きの2タイプの商品がある。なお、付属スキャナーは、約30枚の名刺を連続して自動的に読み取ることができる。

やさしく名刺ファイリング PRO v.5.0

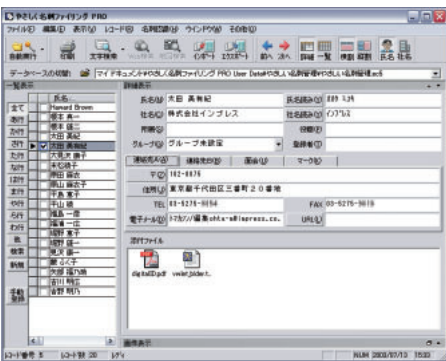
メディアドライブ

URL <http://www.mediadrive.co.jp/>

価格: 39,800円

「やさしく名刺ファイリング PRO v.5.0」のソフトウェアは、スキャナーの読み込みから文字認識、データベースへの登録までを自動的に行う「自動実行」機能を備えている。約30枚の名刺を連続して読み取れる付属のスキャナーと組み合わせれば、多くの名刺をスピーディーにデータベース化できるのが特徴だ。一方、ていねいに文字認識を行いたいときは、「手動登録」を使うといい。このモードでは、ロゴや顔写真などを「認識除外領域」に設定することで認識の精度を上げると同時に、誤認識された部分だけをあとから再認識させることも可能だ。

データベースには、名刺情報以外に面会の約束を書き入れたり、関連する書類を添付ファイルとして登録したりできる。また、メールソフトやブラウザを自動で起動する機能や、地図検索、登録情報をキーワードにYahoo!などでウェブ検索する機能も備えている。通常のテキスト検索に加え、音声検索ができるのも、このツールの特徴の1つといえるだろう。



名刺データベースをネットワークで共有したときに、情報の閲覧に使用する「やさしく名刺ファイリング PRO Viewer v.5.0」。これは取り込み機能や認識機能が付いていない。



付属のUSB接続スキャナーはフルカラー対応で最大解像度600dpi。一度に約30枚の名刺を連続して読み込める。

ウィンドウには、読み込んだ名刺の一覧表示や個々の名刺の詳細情報、名刺の取り込み画像、関連する添付ファイルのアイコンなどが表示される。



「やさしく名刺ファイリング PRO v.5.0」からネットワーク共有機能や音声検索、ボイスメモ、ContactXML形式での出力機能を除いた「やさしく名刺ファイリング v.2.0」。付属の小型スキャナーはモノクロ専用で、自動連続読み込みは未対応。価格は12,800円。

名刺OCR V3.0

富士通ミドルウェア [URL http://www.fmw.fujitsu.com/products/](http://www.fmw.fujitsu.com/products/)

価格: 12,800円

「名刺OCR V3.0」は、TWAIN対応であればどんなスキャナーからでも名刺情報を読み込める。カラー対応で、A4サイズのフラットベッド・スキャナーで一度に最大8枚までの名刺情報のスキャンが可能だ。読み取った情報は、約120万件のデータを持つ会社名辞書をはじめとする各種辞書で補正されるため、文字認識の精度はかなり高い。

「エクセル」「アウトLOOK」「アウトLOOKエクスプレス」や「筆まめ」「携帯電話」へはワンクリックでデータをエクスポートでき、CSV、vCard、Jアドレス形式でデータを書き出すこともできる。



「名刺OCR V3.0」の「名刺管理画面」には、名刺フォルダーの一覧や選択したフォルダーの名刺データ一覧、選択した名刺のイメージや情報が表示される。



名刺の情報を修正する「名刺修正画面」、部分的に認識し直すことも可能だ。



「名刺管理画面」ツールバーの「Excel」ボタンをクリックすると(右上)自動的にエクセルが起動して選択した名刺のデータが追加される。

名刺管理ソフト機能比較一覧表

商品名 / 機能	スキャナdel!名刺整理	名刺PORT パイリಂಗル	名刺ふるだ - ネット V2
付属スキャナー	付属(カラー)	付属(白/黒)2	付属(カラー)
他のスキャナー利用	x	(カラー・スキャナー対応)	(カラー・スキャナー対応)
付属スキャナーの連続読み取り枚数	1枚	1枚	約30枚
ファイル読み込み(対応形式)	BMP、TIFF、JPEG、PNG	BMP、TIFF、JPEG、PDF	BMP、JPEG、PNG、TIFF
英語名刺対応	x		x
部分的な再認識			x
連携機能	Outlook、Outlook Express、ブラウザ、地図検索*1 など	Outlook、Outlook Express、Excel、筆まめ、携帯電話、Yahoo! *3 など	Outlook、Outlook Express、ブラウザ、メールソフト など
エクスポート形式	ContactXML、Jアドレス、vCard、CSV	CSV、Jアドレス、vCard	ContactXML、CSV、Jアドレス、vCard
共有機能	x	(台数分ライセンスが必要)	(台数分ライセンスが必要)

商品名 / 機能	やさしく名刺ファイリングPRO v.5.0	名刺OCR V3.0	やさしく名刺ファイリング v.2.0
付属スキャナー	付属(カラー)	x	付属(白/黒)
他のスキャナー利用	(カラー・スキャナー対応)	(カラー・スキャナー対応)	
付属スキャナーの連続読み取り枚数	約30枚	-	1枚
ファイル読み込み(対応形式)	BMP、TIFF、JPEG、PNG	BMP、TIFF、JPEG	BMP、TIFF、JPEG、PNG
英語名刺対応	x		x
部分的な再認識			
連携機能	ブラウザ、メールソフト、ウェブ検索*4、地図検索*5 など	Outlook、Outlook Express、Excel、筆まめ、携帯電話、Yahoo! *3 など	ブラウザ、メールソフト、ウェブ検索*4、地図検索*5 など
エクスポート形式	ContactXML、CSV、vCard	CSV、Jアドレス、vCard	CSV、vCard
共有機能	(台数分ビューアーライセンスが必要)	(台数分ライセンスが必要)	x

*1 名刺中の住所データから、MapFan WebまたはMapFan.netを使って付近の地図を検索可
 *2 ハードウェアはグレースケールに対応しているが、ソフトウェアは白/黒モードのみで動作
 *3 名刺情報中の会社名から、Yahoo! Japanを使ってその企業のウェブサイトや株式情報、周辺地図、周辺の天候を検索可
 *4 「詳細表示」ウィンドウ中のカーソルを置いた項目を、環境設定で指定したサーチエンジン(Yahoo!、goo、Infoseekのいずれか)で検索可
 *5 名刺中の住所データから付近の地図をMapFan Webを使って検索可



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp